

年 度	令和8年度
学 科	柔道整復師科
開 講 科 目 名	テーブ・キネ
担 当 教 員	益 賢明／樋口 朋基
カ リ キ ュ ラ ム 名	基礎実技Ⅳ
単 位 数 (時 間 数)	1(30)
配 当 年 次	1年次
部	昼間部
授 業 形 態	実技
開 講 期 間	前期
授 業 概 要 ・ 目 的	テーピングの構造、種類を理解する。 関節を動かす筋の解剖学知識を知り、関節運動に制限をかけたり、動きを促進させるテーピングの技術を身につける。
到 達 目 標	筋の走行、目的に応じたテーピングの選択、貼る技術を身につけることを目的とする。
成績評価方法及び基準	・実技試験で100%の評価を行う。
履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ)	・患部の固定や保護など目的に応じたテーピング技術を身につけます。 ・筋の走行をテープを貼ることで理解します。
教 育 ・ 実 務 業 績	益 賢明 柔道整復師、柔道整復師専科教員、柔道整復研修試験財団認定実技審査員、 柔道3段、公認柔道指導者 B指導員、公認柔道審判員 Cライセンス 1. 教育上の業績 平成17年4月～平成23年9月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教員助手 平成23年10月～ 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 専任教員(現在に至る) 平成31年4月～令和6年3月 宝塚医療大学 非常勤講師 2. 実務上の業績 平成19年～25年 ガンバ大阪アカデミー本部トレーナー 平成26年～平成30年 追手門学院大学男子女子ラグビー部トレーナー 平成26年～平成30年 追手門学院高校女子ラグビー部トレーナー 平成21年～平成30年 日本プロサッカーリーグフットボール本部育成部でのトレーナー活動 平成30年～ 大阪府バスケットボール協会 医事委員会 サポートスタッフ(現在に至る) 令和3年～ 甲南大学男子ラグビー部トレーナー(現在に至る) 樋口 朋基 実務上の業績 平成23年 学校法人平成医療学園 平成医療学園専門学校 専任教員(～現在に至る) (担当科目:柔道整復理論、各種国家試験対策講義など)

1 項 目	テーピングの基礎
学 習 目 標・ポ イ ン ト	テーピングの種類、使い方を理解する
使 用 す る 材 料	プリント
備 考	
2 項 目	足関節のテーピング①
学 習 目 標・ポ イ ン ト	テーピング技術の向上
使 用 す る 材 料	テーピング
備 考	
3 項 目	足関節のテーピング②
学 習 目 標・ポ イ ン ト	テーピング技術の向上
使 用 す る 材 料	テーピング
備 考	
4 項 目	下腿部のテーピング①
学 習 目 標・ポ イ ン ト	テーピング技術の向上
使 用 す る 材 料	テーピング
備 考	
5 項 目	膝関節のテーピング①
学 習 目 標・ポ イ ン ト	テーピング技術の向上
使 用 す る 材 料	テーピング
備 考	
6 項 目	膝関節のテーピング②
学 習 目 標・ポ イ ン ト	テーピング技術の向上
使 用 す る 材 料	テーピング
備 考	
7 項 目	大腿部のテーピング
学 習 目 標・ポ イ ン ト	テーピング技術の向上
使 用 す る 材 料	テーピング
備 考	
8 項 目	肩関節のテーピング①
学 習 目 標・ポ イ ン ト	テーピング技術の向上
使 用 す る 材 料	テーピング
備 考	
9 項 目	肩関節のテーピング②
学 習 目 標・ポ イ ン ト	テーピング技術の向上
使 用 す る 材 料	テーピング
備 考	
10 項 目	上腕部・肘関節のテーピング①
学 習 目 標・ポ イ ン ト	テーピング技術の向上
使 用 す る 材 料	テーピング
備 考	
11 項 目	上腕部・肘関節のテーピング②
学 習 目 標・ポ イ ン ト	テーピング技術の向上
使 用 す る 材 料	テーピング
備 考	
12 項 目	前腕部・手関節のテーピング①
学 習 目 標・ポ イ ン ト	テーピング技術の向上
使 用 す る 材 料	テーピング
備 考	
13 項 目	前腕部・手関節のテーピング②
学 習 目 標・ポ イ ン ト	テーピング技術の向上
使 用 す る 材 料	テーピング
備 考	
14 項 目	体幹部のテーピング
学 習 目 標・ポ イ ン ト	テーピング技術の向上
使 用 す る 材 料	テーピング
備 考	
15 項 目	単位認定試験
学 習 目 標・ポ イ ン ト	授業の理解度を測る
使 用 す る 材 料	
備 考	

年 度	令和8年度
学 科	柔道整復師科
開 講 科 目 名	柔道 I
担 当 教 員	室 王貴／益 賢明
カ リ キ ュ ラ ム 名	柔道 I
単 位 数 (時 間 数)	1(30)
配 当 年 次	1年次
部	昼間部
授 業 形 態	実技
開 講 期 間	通年
授 業 概 要 ・ 目 的	武道の特性を理解させ、柔道の技術と精神性や礼儀作法を主に学び、対人的技能の向上、立ち技や寝技の習得、審判法やルール、投げの形を身につけるものとする。
到 達 目 標	柔道を通じて礼儀作法、受け身、立ち技、寝技、技の打込みなどの基本動作の練習。投げ込み、乱取り稽古など実戦練習の習得。座学として柔道の歴史や審判規定の修学。
成績評価方法及び基準	【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」I 教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 成績評価方法: 通年15コマにおいて、最後の授業に単位認定試験を行い授業内評価を合わせて100%で評価を行う等。 試験内容については授業内で伝える。
履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ)	【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと ①各自授業開始までに更衣室にて正しく柔道着を着用し準備すること。 ②授業開始時には道場中央で整列した状態で座って待つ事。出席呼名時に、更衣室にいる際は遅刻扱いとする。 ③体調を整え、手足の爪を切りケガに注意する事。
教 育 ・ 実 務 業 績	室 王貴 1、担当科目における教育上の業績 平成22年より教員助手として当校における柔道の授業を補助 平成26年より専科教員として当校における柔道の授業を担当 平成29年より認定実技審査(柔道実技)として自校審査員を担当 令和1年より認定実技審査(柔道実技)として名古屋平成看護医療の自校審査員を担当 2、実務上の業績(臨床経験等) ※業績がない場合は記入不要です。 平成22年3月から平成25年7月まで柔道整復師として、ひらた整骨院に勤務 平成25年11月に、むろ鍼灸整骨院を開業し院長として現在に至る 益 賢明 柔道整復師、柔道整復師専科教員、柔道整復研修試験財団認定実技審査員、柔道3段、公認柔道指導者 B指導員、公認柔道審判員 Cライセンス 1. 教育上の業績 平成17年4月～平成23年9月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教員助手 平成23年10月～ 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 専任教員(現在に至る) 平成31年4月～令和6年3月 宝塚医療大学 非常勤講師 2. 実務上の業績 平成19年～25年 ガンバ大阪アカデミー本部トレーナー 平成26年～平成30年 追手門学院大学男子女子ラグビー部トレーナー 平成26年～平成30年 追手門学院高校女子ラグビー部トレーナー 平成21年～平成30年 日本プロサッカーリーグフットボール本部育成部でのトレーナー活動 平成30年～ 大阪府バスケットボール協会 医事委員会 サポートスタッフ(現在に至る) 令和3年～ 甲南大学男子ラグビー部トレーナー(現在に至る)

1 項 目	柔道の歴史や基礎知識の修学
学習目標・ポイント	柔道着の着用方法や名称の説明。礼法、補強運動、受け身の基本動作の説明と練習。
使用する材料	
備考	
2 項 目	礼法、投げ技の基本動作(姿勢、組手、八方崩し、すり足継足動作、体さばき、受け身)
学習目標・ポイント	補強運動、後ろ受け身、横受け身、前回り受け身
使用する材料	
備考	
3 項 目	礼法、投げ技の対人的技能(基礎)
学習目標・ポイント	補強運動、後ろ受け身、横受け身、前回り受け身の練習。背負投げの基本動作
使用する材料	
備考	
4 項 目	受け身、投げ技、寝技の対人的技能(基礎)
学習目標・ポイント	補強運動、後ろ受け身、横受け身、前回り受け身の練習。寝技における固め技の基本動作
使用する材料	袈裟固め、横四方固め、上四方固めの練習。立ち技における大内刈りの基本動作
備考	
5 項 目	受け身、投げ技、寝技の対人的技能(基礎、含む約束練習)
学習目標・ポイント	袈裟固め、横四方固め、上四方固めの練習。立ち技の基本動作と投げ込みの練習。
使用する材料	
備考	
6 項 目	受け身、投げ技、寝技の対人的技能(基礎、含む約束練習)
学習目標・ポイント	立ち技における投げを打つ前の相手を崩し、投げに有利な組手の基本動作を身につけること。
使用する材料	
備考	
7 項 目	受け身、投げ技、寝技の対人的技能(基礎含む動きながらの約束練習)
学習目標・ポイント	投げ技における自身が投げやすい得意技を身につけること。実際に投げること。
使用する材料	投げる動作が多くなるので、ケガをしない受け身を反復すること。
備考	
8 項 目	受け身、投げ技の対人的技能(動きながら投げるなどの応用練習)。
学習目標・ポイント	実戦形式に動きながら相手を投げること。受けはケガをしない応用的な受け身を練習する。
使用する材料	
備考	
9 項 目	受け身、投げ技の対人的技能(動きながら投げるなどの応用練習)。
学習目標・ポイント	実戦形式に動きながら相手を投げること。受けはケガをしない応用的な受け身を練習する。
使用する材料	
備考	
10 項 目	受け身、投げ技、寝技の対人的技能(応用、実戦形式の自由乱取り練習)
学習目標・ポイント	投げ技から固め技の移行を練習する。
使用する材料	
備考	
11 項 目	受け身、投げ技、寝技の対人的技能(応用、実戦形式の自由乱取り練習)
学習目標・ポイント	立ち技の投げの際に単発的な技を仕掛けるのではなく、連続的に技を複数繰り出し投げる。
使用する材料	
備考	
12 項 目	受け身、投げ技、寝技の対人的技能(応用、実戦形式の自由乱取り練習)
学習目標・ポイント	立ち技の投げの際に連続的に技を複数繰り出し姿勢を崩し、より実践的に相手を投げる。
使用する材料	
備考	
13 項 目	受け身、投げ技、寝技の対人的技能(応用反復練習)
学習目標・ポイント	審判規定やルールを実際の動きに沿って説明する。
使用する材料	試験に向けての受け身、投げ技、寝技の反復練習
備考	
14 項 目	試験内容について説明、試験に向けての反復練習
学習目標・ポイント	試験に向けての規定された身だしなみの説明、実技の説明をする。
使用する材料	試験に向けての受け身、投げ技、寝技の反復練習
備考	
15 項 目	定期試験(授業内評価)
学習目標・ポイント	
使用する材料	
備考	

年 度	令和8年度
学 科	柔道整復師科
開 講 科 目 名	柔整理論【上肢】Ⅱ
担 当 教 員	益 賢明
カ リ キ ュ ラ ム 名	臨床柔整学Ⅱ
単 位 数 (時 間 数)	1(30)
配 当 年 次	2年次
部	昼間部
授 業 形 態	講義
開 講 期 間	前期
授 業 概 要 ・ 目 的	柔道整復学理論P263～304の全範囲を履修する事を目的とする。
到 達 目 標	柔道整復師としての基礎を学習し、臨床にも通用する理論の学習を目標とする。
成績評価方法及び基準	基準： 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ 教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 成績評価方法： 単位認定試験80%、通常授業内での小テスト20%を合わせて100%で評価を行う。
履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ)	『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。
教 育 ・ 実 務 業 績	益 賢明 柔道整復師、柔道整復師専科教員、柔道整復研修試験財団認定実技審査員、 柔道3段、公認柔道指導者 B指導員、公認柔道審判員 Cライセンス 1. 教育上の業績 平成17年4月～平成23年9月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教員助手 平成23年10月～ 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 専任教員(現在に至る) 平成31年4月～令和6年3月 宝塚医療大学 非常勤講師 2. 実務上の業績 平成19年～25年 ガンバ大阪アカデミー本部トレーナー 平成26年～平成30年 追手門学院大学男子女子ラグビー部トレーナー 平成26年～平成30年 追手門学院高校女子ラグビー部トレーナー 平成21年～平成30年 日本プロサッカーリーグフットボール本部育成部でのトレーナー活動 平成30年～ 大阪府バスケットボール協会 医事委員会 サポートスタッフ(現在に至る) 令和3年～ 甲南大学男子ラグビー部トレーナー(現在に至る) 担当科目における教育上の業績： 平成17年より教員助手として柔整理論上肢の授業を補助。 平成23年より専任教員として柔整理論上肢の授業を担当。

1 項 目	ガレアジ骨折 モンテギア骨折
学習目標・ポイント	総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症
使用する材料	スライド
備考	
2 項 目	橈尺両骨骨幹部骨折
学習目標・ポイント	総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症
使用する材料	スライド
備考	
3 項 目	コーレス骨折①
学習目標・ポイント	総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症
使用する材料	スライド
備考	
4 項 目	コーレス骨折②
学習目標・ポイント	総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症
使用する材料	スライド
備考	
5 項 目	スミス骨折 掌側・背側バートン骨折 ショーファー骨折
学習目標・ポイント	総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症
使用する材料	スライド
備考	
6 項 目	舟状骨骨折
学習目標・ポイント	総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症
使用する材料	スライド
備考	
7 項 目	月状骨骨折 手根骨骨折
学習目標・ポイント	総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症
使用する材料	スライド
備考	
8 項 目	中手骨骨折、ペネット骨折、
学習目標・ポイント	総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症
使用する材料	スライド
備考	
9 項 目	胸鎖関節脱臼 肩鎖関節脱臼
学習目標・ポイント	総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症
使用する材料	スライド
備考	
10 項 目	肩関節脱臼①
学習目標・ポイント	総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症
使用する材料	スライド
備考	
11 項 目	肩関節脱臼②
学習目標・ポイント	総論・発生機序・転位・症状・固定法・合併症・後遺症
使用する材料	スライド
備考	
12 項 目	肘関節脱臼
学習目標・ポイント	総論・発生機序・症状・合併症・後遺症
使用する材料	スライド
備考	
13 項 目	肘内障
学習目標・ポイント	総論・発生機序・症状・合併症・後遺症
使用する材料	スライド
備考	
14 項 目	橈骨手根関節脱臼 月状骨脱臼 月状骨周囲脱臼
学習目標・ポイント	総論・発生機序・症状・合併症・後遺症
使用する材料	スライド
備考	
15 項 目	総復習
学習目標・ポイント	
使用する材料	
備考	

年 度	令和8年度
学 科	柔道整復師科
開 講 科 目 名	スポーツ外傷Ⅰ
担 当 教 員	山田 温
カ リ キ ュ ラ ム 名	応用実技Ⅱ
単 位 数 (時 間 数)	1(30)
配 当 年 次	1年次
部	昼間部
授 業 形 態	実技
開 講 期 間	後期
授 業 概 要 ・ 目 的	スポーツ外傷・障害について外傷直後の評価からスポーツ競技復帰までのアスレティックリハビリテーションを学ぶ。またスポーツ競技向上のトレーニングについて学ぶ
到 達 目 標	怪我の評価ができる。怪我の適切な処置ができる。怪我のリハビリプログラムが組める。スポーツ復帰までのプログラムが組める。
成績評価方法及び基準	【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 単位認定試験と授業内評価を合わせて100%で評価を行う。
履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ)	【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。
教 育 ・ 実 務 業 績	1、担当科目における教育上の業績 2004年4月～ 平成医療学園 柔道整復師科にて教務として勤務 2、実務上の業績(臨床経験等) 2011年3月～ ワイズ接骨院にて管理柔整師として勤務

1 項 目	オリエンテーション、外傷の評価について
学習目標・ポイント	SALTAPS、HOPS
使用する材料	プリント
備考	
2 項 目	RICES法について、アイシングの生理学について
学習目標・ポイント	二次的低酸素障害、ペインスパズムサイクル
使用する材料	プリント
備考	
3 項 目	ストレッチングについて(座学)
学習目標・ポイント	静的、動的ストレッチング
使用する材料	プリント
備考	
4 項 目	ストレッチングについて(実技)
学習目標・ポイント	スタティック、ダイナミック、パートナー、PNF、IDストレッチングなど
使用する材料	プリント
備考	
5 項 目	足関節の外傷(座学)
学習目標・ポイント	靱帯、軟部組織の役割、鑑別診断など
使用する材料	プリント
備考	
6 項 目	足関節の外傷(実技)
学習目標・ポイント	メディカルリハビリテーション
使用する材料	プリント
備考	
7 項 目	足関節の外傷(実技)
学習目標・ポイント	アスレティックリハビリテーション
使用する材料	プリント
備考	
8 項 目	膝関節の外傷(座学)
学習目標・ポイント	靱帯、軟部組織の役割、鑑別診断など
使用する材料	プリント
備考	
9 項 目	膝関節の外傷(実技)
学習目標・ポイント	メディカルリハビリテーション
使用する材料	プリント
備考	
10 項 目	膝関節の外傷(実技)
学習目標・ポイント	アスレティックリハビリテーション
使用する材料	プリント
備考	
11 項 目	大腿部の外傷(座学)
学習目標・ポイント	靱帯、軟部組織の役割、鑑別診断など
使用する材料	プリント
備考	
12 項 目	大腿部の外傷(実技)
学習目標・ポイント	メディカルリハビリテーション
使用する材料	プリント
備考	
13 項 目	大腿部の外傷(実技)
学習目標・ポイント	アスレティックリハビリテーション
使用する材料	プリント
備考	
14 項 目	復習
学習目標・ポイント	
使用する材料	今までの配布プリント
備考	
15 項 目	実技テスト
学習目標・ポイント	
使用する材料	
備考	

年 度	令和8年度
学 科	柔道整復師科
開 講 科 目 名	スポーツ外傷Ⅱ
担 当 教 員	山田 温
カ リ キ ュ ラ ム 名	応用実技Ⅳ
単 位 数 (時 間 数)	1(30)
配 当 年 次	2年次
部	昼間部
授 業 形 態	実技
開 講 期 間	前期
授 業 概 要 ・ 目 的	主に上肢のスポーツ外傷のメカニズムを学び、原因、判断、処置の方法などを学ぶ。 キネシオテーピングの技術を習得する。
到 達 目 標	スポーツの現場でケガに遭遇した時に、何をしないといけないかを判断し、適切な処置ができるようになる。
成績評価方法及び基準	必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 実技試験で100%の評価を行う。
履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ)	『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。
教 育 ・ 実 務 業 績	1、担当科目における教育上の業績 2004年4月～ 平成医療学園 柔道整復師科にて教務として勤務 2、実務上の業績 2011年3月～ ワイズ接骨院にて管理柔整師として勤務

1 項 目	スポーツ外傷とは、筋肉の基礎
学 習 目 標・ポ イ ン ト	スポーツ外傷の意味を学ぶ。筋肉の基礎的な復習。
使 用 す る 材 料	
備 考	
2 項 目	応急処置とメディカルチェック
学 習 目 標・ポ イ ン ト	RICE処置とメディカルチェックの項目を理解し、実際に体験する。
使 用 す る 材 料	角度計、メジャー
備 考	
3 項 目	ウォーミングアップとクールダウン
学 習 目 標・ポ イ ン ト	W-PとC-Dの目的を理解する。
使 用 す る 材 料	
備 考	
4 項 目	ストレッチの実際
学 習 目 標・ポ イ ン ト	状況に応じたストレッチの選択と実技を習得する。
使 用 す る 材 料	
備 考	
5 項 目	キネシオテーピングとは
学 習 目 標・ポ イ ン ト	キネシオの目的、効果、貼り方など基本を知る。
使 用 す る 材 料	キネシオテーピング
備 考	
6 項 目	肩関節の外傷①
学 習 目 標・ポ イ ン ト	腱板損傷
使 用 す る 材 料	
備 考	
7 項 目	肩関節の外傷②
学 習 目 標・ポ イ ン ト	野球肩
使 用 す る 材 料	
備 考	
8 項 目	肩関節のテーピング
学 習 目 標・ポ イ ン ト	肩関節に対する様々なキネシオの技術を習得する。
使 用 す る 材 料	キネシオテーピング、伸縮テーピング
備 考	
9 項 目	肘関節の外傷①
学 習 目 標・ポ イ ン ト	野球肘
使 用 す る 材 料	
備 考	
10 項 目	肘関節の外傷②
学 習 目 標・ポ イ ン ト	テニス肘
使 用 す る 材 料	
備 考	
11 項 目	肘関節のテーピング
学 習 目 標・ポ イ ン ト	肘関節に対する様々なキネシオの技術を習得する。
使 用 す る 材 料	伸縮テーピング(50mm)
備 考	
12 項 目	手関節・手部の外傷①
学 習 目 標・ポ イ ン ト	槌指
使 用 す る 材 料	
備 考	
13 項 目	手関節・手部の外傷②
学 習 目 標・ポ イ ン ト	TFCC
使 用 す る 材 料	
備 考	
14 項 目	手関節・手部のテーピング
学 習 目 標・ポ イ ン ト	手関節・手部に対する様々なキネシオの技術を習得する。
使 用 す る 材 料	ホワイトテーピング、伸縮テーピング
備 考	
15 項 目	授業内評価と総括
学 習 目 標・ポ イ ン ト	与えられたテーマに対して適切なテーピングを巻くことができるか。
使 用 す る 材 料	
備 考	

年 度	令和8年度
学 科	柔道整復師科
開 講 科 目 名	基礎実技上肢Ⅰ
担 当 教 員	竹本 晋史
科 目 名 (中 項 目)	基礎柔整実技Ⅰ
単 位 数 (時 間 数)	1(30)
配 当 年 次	2年次
部	昼間部
授 業 形 態	実技
開 講 期 間	前期
授 業 概 要 ・ 目 的	知識としてまず、解剖を理解した上で各損傷を深く熟知してもらう。技術面では体表解剖を正確に触診出来ることを最低限のノルマとして、正確な柔道整復術と検査法、的確な固定法を身につけてもらう。 また、患者への愛護的な扱いと対話の重要性を理解し社会奉仕の心を構築する。
到 達 目 標	医療人としての知識と技術と常識を養う事を目標とする。
成績評価方法及び基準	平常点10% 服装、身だしなみ、言動 レポート20% 各項目のまとめを図説入りで行う 実技試験70% 整復操作・固定操作
履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ)	医療人としての知識と技術と常識を養う事は勿論、人格形成が最重要。 医療人として、柔道整復師としての自覚と責務を育ててください。
教 育 ・ 実 務 業 績	平成12年 竹本鍼灸整骨院開設 平成19年4月～平成医療学園専門学校 柔道整復師科 専科教員 平成24年4月～平成医療学園専門学校 柔道整復師科 学科長 平成29年9月～柔道整復認定実技審査員 令和3年4月～平成医療学園専門学校 教務部長 令和8年4月～平成医療学園専門学校 校長 平成17年～現在 筋骨格画像研究会会長 平成17年～現在 鍼灸柔整新聞(旧日本鍼灸マッサージ新聞) 柔道整復と超音波画像観察装置連載(年2回) 平成18年4月 超音波による骨・筋・関節の観察(南山堂)執筆協力 平成20年9月 運動器の超音波(南山堂)執筆協力 平成26年3月 東洋療法教員養成学科卒業 平成26年4月～鍼灸科3年応用実技Ⅲ授業担当

1 項 目	自己紹介・一般外傷症状・骨折・脱臼固有症状・包帯復習
学 習 目 標・ポ イ ン ト	骨折・脱臼症状の再確認と包帯固定の理解。基本包帯から固定包帯への意識を持ってもらう
使 用 す る 材 料	包帯持参
備 考	
2 項 目	鎖骨骨折
学 習 目 標・ポ イ ン ト	概説・発生機序・骨片転位・整復固定操作の理解と実技。 整復時の骨片の動きをイメージし、再転位を防止する固定法を身につける
使 用 す る 材 料	包帯持参・柔整パット・スダレ副子・枕子
備 考	
3 項 目	上腕骨外科頸骨折(外転型)
学 習 目 標・ポ イ ン ト	概説・発生機序・骨片転位・整復固定操作の理解と実技。 整復時の骨片の動きをイメージし、再転位を防止する固定法を身につける。
使 用 す る 材 料	包帯持参・柔整パット・スダレ副子・枕子
備 考	
4 項 目	上腕骨外科頸骨折(内転型)
学 習 目 標・ポ イ ン ト	概説・発生機序・骨片転位・整復固定操作の理解と実技。 整復時の骨片の動きをイメージし、再転位を防止する固定法を身につける。
使 用 す る 材 料	包帯持参・柔整パット・スダレ副子・枕子
備 考	
5 項 目	上腕骨骨幹部骨折
学 習 目 標・ポ イ ン ト	概説・発生機序・骨片転位・整復固定操作の理解と実技。 整復時の骨片の動きをイメージし、再転位を防止する固定法を身につける。
使 用 す る 材 料	包帯持参・柔整パット・スダレ副子・枕子
備 考	
6 項 目	上腕骨顆上骨折
学 習 目 標・ポ イ ン ト	概説・発生機序・骨片転位・整復固定操作の理解と実技。 整復時の骨片の動きをイメージし、再転位を防止する固定法を身につける。
使 用 す る 材 料	包帯持参・柔整パット・スダレ副子・枕子
備 考	
7 項 目	上腕骨外顆骨折・上腕骨内側上顆骨折
学 習 目 標・ポ イ ン ト	概説・発生機序・骨片転位・整復固定操作の理解と実技。 整復時の骨片の動きをイメージし、再転位を防止する固定法を身につける。
使 用 す る 材 料	包帯持参・柔整パット・スダレ副子・枕子
備 考	
8 項 目	橈骨近位端部骨折
学 習 目 標・ポ イ ン ト	概説・発生機序・骨片転位・整復固定操作の理解と実技。 整復時の骨片の動きをイメージし、再転位を防止する固定法を身につける。
使 用 す る 材 料	包帯持参・柔整パット・スダレ副子・枕子
備 考	
9 項 目	肘部骨折・モンテギア骨折
学 習 目 標・ポ イ ン ト	概説・発生機序・骨片転位・整復固定操作の理解と実技。 整復時の骨片の動きをイメージし、再転位を防止する固定法を身につける。
使 用 す る 材 料	包帯持参・柔整パット・スダレ副子・枕子
備 考	
10 項 目	前腕両骨骨幹部骨折
学 習 目 標・ポ イ ン ト	概説・発生機序・骨片転位・整復固定操作の理解と実技。 整復時の骨片の動きをイメージし、再転位を防止する固定法を身につける。
使 用 す る 材 料	包帯持参・柔整パット・スダレ副子・枕子
備 考	
11 項 目	コーレス骨折・橈骨遠位端骨端線離開
学 習 目 標・ポ イ ン ト	概説・発生機序・骨片転位・整復固定操作の理解と実技。 整復時の骨片の動きをイメージし、再転位を防止する固定法を身につける。
使 用 す る 材 料	包帯持参・柔整パット・スダレ副子・枕子
備 考	
12 項 目	スミス骨折・舟状骨骨折
学 習 目 標・ポ イ ン ト	概説・発生機序・骨片転位・整復固定操作の理解と実技。 整復時の骨片の動きをイメージし、再転位を防止する固定法を身につける。
使 用 す る 材 料	包帯持参・柔整パット・スダレ副子・枕子
備 考	
13 項 目	中手骨頭部骨折・中手骨骨幹部骨折
学 習 目 標・ポ イ ン ト	概説・発生機序・骨片転位・整復固定操作の理解と実技。 整復時の骨片の動きをイメージし、再転位を防止する固定法を身につける。
使 用 す る 材 料	包帯持参・柔整パット・スダレ副子・枕子・アルフェンス・脱脂綿
備 考	
14 項 目	ペネット骨折・基節骨骨幹部骨折
学 習 目 標・ポ イ ン ト	概説・発生機序・骨片転位・整復固定操作の理解と実技。 整復時の骨片の動きをイメージし、再転位を防止する固定法を身につける。
使 用 す る 材 料	包帯持参・柔整パット・スダレ副子・枕子・アルフェンス・脱脂綿
備 考	
15 項 目	授業内評価
学 習 目 標・ポ イ ン ト	前期の理解度、技術の向上度を確認
使 用 す る 材 料	包帯持参・柔整パット・スダレ副子・枕子・シーネ
備 考	

年 度	令和8年度
学 科	柔道整復師科
開 講 科 目 名	基礎実技下肢I
担 当 教 員	山口 悠
科 目 名 (中 項 目)	基礎柔整実技Ⅱ
単 位 数 (時 間 数)	1(30)
配 当 年 次	2年次
部	屋間部
授 業 形 態	実技
開 講 期 間	前期
授 業 概 要 ・ 目 的	下肢非開放性外傷及び運動機能障害への基礎知識を身につける
到 達 目 標	柔道整復師として下肢非開放性外傷に対する問診、検査、診断、固定、手技療法が行えるようにする
成績評価方法及び基準	【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 授業内評価＋授業内実技試験にて100点満点で評価する
履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ)	【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。
教 育 ・ 実 務 業 績	H15.4～H17.3 松下電エインパルスアメリカンフットボール部 トレーナー研修 H20.3～H23.3 つかはら鍼灸・整骨院に柔道整復師として勤務 H23.4～ 山口整骨院 開業 H28.10～ 奈良県国体 成年男子バスケットボール部 専属トレーナー R4.4～ 大阪商業大学高等学校バスケットボール部 トレーナー R7.3～ (一社)奈良県バスケットボール協会 医科学委員

1 項 目	総論・取り組みについて
学習目標・ポイント	授業計画・施術に対する心構え
使用する材料	パソコン・配布教材・備品消耗品等
備考	
2 項 目	足関節外傷について
学習目標・ポイント	急性外傷に対する診断、固定
使用する材料	パソコン・配布教材・備品消耗品等
備考	
3 項 目	足関節運動機能障害について
学習目標・ポイント	回復期に対する手技療法、運動法、予防法
使用する材料	パソコン・配布教材・備品消耗品等
備考	
4 項 目	膝関節外傷について
学習目標・ポイント	急性外傷に対する検査、固定
使用する材料	パソコン・配布教材・備品消耗品等
備考	
5 項 目	膝関節外傷について
学習目標・ポイント	急性外傷に対する検査、固定
使用する材料	パソコン・配布教材・備品消耗品等
備考	
6 項 目	膝関節運動機能障害について
学習目標・ポイント	回復期に対する手技療法、運動法、予防法
使用する材料	パソコン・配布教材・備品消耗品等
備考	
7 項 目	股関節外傷について
学習目標・ポイント	急性外傷に対する検査、固定
使用する材料	パソコン・配布教材・備品消耗品等
備考	
8 項 目	股関節運動機能障害について
学習目標・ポイント	回復期に対する手技療法、運動法、予防法
使用する材料	パソコン・配布教材・備品消耗品等
備考	
9 項 目	大腿部筋外傷について
学習目標・ポイント	急性外傷に対する検査、固定
使用する材料	パソコン・配布教材・備品消耗品等
備考	
10 項 目	大腿部筋の運動機能障害について
学習目標・ポイント	回復期に対する手技療法、運動法、予防法
使用する材料	パソコン・配布教材・備品消耗品等
備考	
11 項 目	下腿筋及びアキレス腱外傷について
学習目標・ポイント	急性外傷に対する検査、固定
使用する材料	パソコン・配布教材・備品消耗品等
備考	
12 項 目	下腿筋及びアキレス腱運動機能障害について
学習目標・ポイント	回復期に対する手技療法、運動法、予防法
使用する材料	パソコン・配布教材・備品消耗品等
備考	
13 項 目	下肢に起こりうる外傷の鑑別診断について
学習目標・ポイント	既に学習した下肢外傷以外の鑑別診断
使用する材料	パソコン・配布教材・備品消耗品等
備考	
14 項 目	復習及び試験対策
学習目標・ポイント	試験に向けての対策
使用する材料	パソコン・配布教材・備品消耗品等
備考	
15 項 目	授業内試験
	学生が到達目標に達しているかの確認
使用する材料	パソコン・配布教材・備品消耗品等
備考	

年 度	令和8年度
学 科	柔道整復師科
開 講 科 目 名	基礎実技固定
担 当 教 員	竹本 晋史
カ リ キ ュ ラ ム 名	基礎柔整実技Ⅲ
単 位 数 (時 間 数)	1(30)
配 当 年 次	2年次
部	昼間部
授 業 形 態	実技
開 講 期 間	通年
授 業 概 要 ・ 目 的	知識としてまず、解剖を理解した上で各損傷を深く熟知してもらう。技術面では体表解剖を正確に触診出来ることを最低限のノルマとして、正確な柔道整復術と検査法、的確な固定法を身につけてもらう。 また、患者への愛護的な扱いと対話の重要性を理解し社会奉仕の心を構築する。
到 達 目 標	医療人としての知識と技術と常識を養う事を目標とする。
成績評価方法及び基準	平常点10% 服装、身だしなみ、言動 レポート20% 各項目のまとめを図説入りで行う 実技試験70% 整復操作・固定操作
履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ)	医療人としての知識と技術と常識を養う事は勿論、人格形成が最重要。 医療人として、柔道整復師としての自覚と責務を育ててください。
教 育 ・ 実 務 業 績	平成12年 竹本鍼灸整骨院開設 平成19年4月～平成医療学園専門学校 柔道整復師科 専科教員 平成24年4月～平成医療学園専門学校 柔道整復師科 学科長 平成29年9月～柔道整復認定実技審査員 令和3年4月～平成医療学園専門学校 教務部長 令和8年4月～平成医療学園専門学校 校長 平成17年～現在 筋骨格画像研究会会長 平成17年～現在 鍼灸柔整新聞(旧日本鍼灸マッサージ新聞) 柔道整復と超音波画像観察装置連載(年2回) 平成18年4月 超音波による骨・筋・関節の観察(南山堂)執筆協力 平成20年9月 運動器の超音波(南山堂)執筆協力 平成26年3月 東洋療法教員養成学科卒業 平成26年4月～鍼灸科3年応用実技Ⅲ授業担当

1 項 目	鎖骨骨折(転位無し)
学 習 目 標・ポ イ ン ト	概説・発生機序・骨片転位・固定操作の理解と実技。再転位を防止する固定法を身につける。
使 用 す る 材 料	包帯持参・柔整パット・脱脂綿
備 考	
2 項 目	鎖骨骨折(転位あり)
学 習 目 標・ポ イ ン ト	概説・発生機序・骨片転位・固定操作の理解と実技。再転位を防止する固定法を身につける。
使 用 す る 材 料	包帯持参・柔整パット・脱脂綿
備 考	
3 項 目	上腕骨外科頸外転型骨折(ハンギングキャスト)
学 習 目 標・ポ イ ン ト	概説・発生機序・骨片転位・固定操作の理解と実技。再転位を防止する固定法を身につける。
使 用 す る 材 料	包帯持参・柔整パット・脱脂綿・シーネ
備 考	
4 項 目	上腕骨外科頸外転型骨折(ミッテルドルフ)
学 習 目 標・ポ イ ン ト	概説・発生機序・骨片転位・固定操作の理解と実技。再転位を防止する固定法を身につける。
使 用 す る 材 料	包帯持参・柔整パット・脱脂綿・シーネ
備 考	
5 項 目	上腕骨顆上骨折【伸展型】
学 習 目 標・ポ イ ン ト	概説・発生機序・骨片転位・固定操作の理解と実技。再転位を防止する固定法を身につける。
使 用 す る 材 料	包帯持参・柔整パット・脱脂綿・シーネ
備 考	
6 項 目	橈骨遠位端骨折
学 習 目 標・ポ イ ン ト	概説・発生機序・骨片転位・固定操作の理解と実技。再転位を防止する固定法を身につける。
使 用 す る 材 料	包帯持参・柔整パット・脱脂綿・シーネ
備 考	
7 項 目	橈骨遠位端骨折
学 習 目 標・ポ イ ン ト	概説・発生機序・骨片転位・固定操作の理解と実技。再転位を防止する固定法を身につける。
使 用 す る 材 料	包帯持参・柔整パット・脱脂綿・シーネ
備 考	
8 項 目	ハムストリング損傷
学 習 目 標・ポ イ ン ト	概説・発生機序・筋肉の走行を理解し固定操作実技。再受傷を防止する固定法を身につける。
使 用 す る 材 料	包帯持参・シーネ・キネシオテープ・ホワイトテープ・綿花
備 考	
9 項 目	大腿四頭筋損傷
学 習 目 標・ポ イ ン ト	概説・発生機序・筋肉の走行を理解し固定操作実技。再受傷を防止する固定法を身につける。
使 用 す る 材 料	包帯持参・シーネ・キネシオテープ・ホワイトテープ・綿花
備 考	
10 項 目	大腿四頭筋損傷(打撲)
学 習 目 標・ポ イ ン ト	概説・発生機序・筋肉の走行を理解し固定操作実技。再受傷を防止する固定法を身につける。
使 用 す る 材 料	包帯持参・シーネ・キネシオテープ・ホワイトテープ・綿花
備 考	
11 項 目	膝内側副靱帯損傷
学 習 目 標・ポ イ ン ト	概説・発生機序・関節の構造を理解し固定操作実技。再受傷を防止する固定法を身につける。
使 用 す る 材 料	包帯持参・シーネ・キネシオテープ・ホワイトテープ・綿花
備 考	
12 項 目	膝半月板損傷
学 習 目 標・ポ イ ン ト	概説・発生機序・関節の構造を理解し固定操作実技。再受傷を防止する固定法を身につける。
使 用 す る 材 料	包帯持参・シーネ・キネシオテープ・ホワイトテープ・綿花
備 考	
13 項 目	足関節捻挫
学 習 目 標・ポ イ ン ト	概説・発生機序・関節の構造を理解し固定操作実技。再受傷を防止する固定法を身につける。
使 用 す る 材 料	包帯持参・シーネ・キネシオテープ・ホワイトテープ・綿花
備 考	
14 項 目	総復習
学 習 目 標・ポ イ ン ト	概説・発生機序・骨片転位、筋肉の走行、関節の構造を理解し固定操作実技。再受傷を防止する固定法を身につける。
使 用 す る 材 料	包帯持参・柔整パット・スタレ副子・枕子・シーネ
備 考	
15 項 目	授業内評価
学 習 目 標・ポ イ ン ト	各自の弱点を認識し克服する。正確な固定法の理解。
使 用 す る 材 料	包帯持参・柔整パット・スタレ副子・枕子・シーネ・キネシオテープ・ホワイトテープ
備 考	

年 度	令和8年度
学 科	柔道整復師科
開 講 科 目 名	柔整理論【下肢】Ⅲ
担 当 教 員	丹治 良輔
カ リ キ ュ ラ ム 名	臨床柔整学Ⅴ
単 位 数 (時 間 数)	1(30)
配 当 年 次	2年次
部	昼間部
授 業 形 態	講義
開 講 期 間	後期
授 業 概 要 ・ 目 的	2年次前期に引き続き、柔道整復理論の下肢体幹分野について、基礎として解剖・機能面を確認後、外傷の発生・各部特徴・治療等について理論的に学習させる。
到 達 目 標	自分の知識として理論的に整理・説明することが出来る。
成績評価方法及び基準	必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ 教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 単位認定試験で100%の評価を行う。又は、試験70%、小テスト30%等、単位認定試験と授業内評価を合わせて100%で評価を行う等。
履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ)	『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。
教 育 ・ 実 務 業 績	平成19年3月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教員助手として入職 平成23年10月 柔道整復師専科教員講習会 修了 平成24年4月 平成医療学園専門学校 柔道整復師科 教務主任を拝命 平成22年4月より 大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座専修学校研修員として研究(継続中) 平成24年4月より 3年次「国対柔理」担当(継続中) 平成24年4月より 1年次、2年次、3年次(年度により変更)「柔道」担当(継続中) 平成30年4月より 2年次「柔整理論【下肢】Ⅱ・Ⅲ」担当(継続中) 令和2年10月より 3年次「国対関係法規」担当(継続中) 令和3年10月より 1年次「解剖学演習」担当(継続中) 令和3年10月より 3年次「国対柔道」担当(継続中) 令和7年4月より 1年次「柔整理論【総論】」担当(継続中)

1 項 目	前期復習
学習目標・ポイント	2年次習得内容の復習・整理・理解
使用する材料	教科書、プロジェクター、授業プリント
備考	
2 項 目	下腿部軟損、足関節部軟損
学習目標・ポイント	機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する
使用する材料	教科書、プロジェクター、授業プリント
備考	
3 項 目	足関節部軟損、足部軟損
学習目標・ポイント	機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する
使用する材料	教科書、プロジェクター、授業プリント
備考	
4 項 目	足部軟損
学習目標・ポイント	機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する
使用する材料	教科書、プロジェクター、授業プリント
備考	
5 項 目	柔理頭部体幹 頸部の損傷 機能解剖復習～上位頸椎骨折
学習目標・ポイント	機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する
使用する材料	教科書、プロジェクター、授業プリント
備考	
6 項 目	柔理頭部体幹 頸部の損傷 中・下位頸椎骨折～むち打ち損傷
学習目標・ポイント	機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する
使用する材料	教科書、プロジェクター、授業プリント
備考	
7 項 目	柔理頭部体幹 頸部の損傷 むち打ち損傷～寝違い
学習目標・ポイント	機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する
使用する材料	教科書、プロジェクター、授業プリント
備考	
8 項 目	柔理頭部体幹 頸部の損傷 胸郭出口症候群
学習目標・ポイント	機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する
使用する材料	教科書、プロジェクター、授業プリント
備考	
9 項 目	柔理頭部体幹 頸部の損傷 寝違い～長胸神経麻痺
学習目標・ポイント	機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する
使用する材料	教科書、プロジェクター、授業プリント
備考	
10 項 目	柔理頭部体幹 胸背部の損傷 機能解剖・肋骨骨折復習、胸骨骨折
学習目標・ポイント	機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する
使用する材料	教科書、プロジェクター、授業プリント
備考	
11 項 目	柔理頭部体幹 胸背部の損傷 胸椎の骨折～胸腰椎移行部椎体圧迫骨折
学習目標・ポイント	機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する
使用する材料	教科書、プロジェクター、授業プリント
備考	
12 項 目	柔理頭部体幹 胸背部の損傷 胸肋関節損傷～背部の軟部組織損傷
学習目標・ポイント	機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する
使用する材料	教科書、プロジェクター、授業プリント
備考	
13 項 目	柔理頭部体幹 腰部の損傷 機能解剖復習～腰椎の骨折
学習目標・ポイント	機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する
使用する材料	教科書、プロジェクター、授業プリント
備考	
14 項 目	柔理頭部体幹 腰部の損傷 腰部の軟部組織損傷
学習目標・ポイント	機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する
使用する材料	教科書、プロジェクター、授業プリント
備考	
15 項 目	総まとめ
学習目標・ポイント	機能解剖を復習、外傷それぞれの特徴を理解する
使用する材料	教科書、プロジェクター、授業プリント
備考	

年 度	令和8年度
学 科	柔道整復師科
開 講 科 目 名	国対実技
担 当 教 員	土岐 明寛／石井 裕己
カ リ キ ュ ラ ム 名	総合実技 I
単 位 数 (時 間 数)	1(30)
配 当 年 次	3年次
部	昼間部
授 業 形 態	実技
開 講 期 間	前期
授 業 概 要 ・ 目 的	基礎実技の集大成となる授業であり、卒業実技試験および認定実技審査に向けた本校の基礎実技の完成を目指す。認定実技審査に全員合格できるように1年生、2年生で教授された内容を引き継ぎ実技操作の再確認を行い、正確かつ安全な操作が出来るように指導する。
到 達 目 標	安心、安全な誘導、操作、固定が出来るようにする。 認定実技審査を全員が合格する。 卒業後の現場で活かせる力を付ける。
成績評価方法及び基準	【全科目共通事項】 必要出席数『「学生のしおり」Ⅰ教務(授業) 10試験について【必要出席数】』に準ずる。 授業内評価(実技評価)で100%の評価を行う。
履修にあたっての注意 (受講者へのメッセージ)	【全科目共通事項】 『「学生のしおり」Ⅲ学内生活 3受講の心得について』に従うこと 無断で教室からの退出を禁止する。 水分の摂取は許可するが、食事は禁止する。 詳しくは初回に説明する。
教育・実務業績	土岐 明寛 1. 教育上の業績 平成29年4月～令和2年3月 平成医療学園専門学校において柔道整復師科専任教員として勤務 令和2年4月～令和3年3月 平成医療学園専門学校において柔道整復師科実技主任として勤務 令和4年4月～ 平成医療学園専門学校において柔道整復師科学科長として勤務し現在に至る 2. 実務上の業績 ①臨床経験 平成15年4月～平成19年3月 鍼灸整骨院で施術補助スタッフとして勤務。 平成19年4月～平成23年7月 鍼灸整骨院や整形外科クリニックのスタッフとして勤務。 平成23年9月～平成24年6月 鍼灸整骨院管理柔整師として開院。 平成24年7月～平成25年3月 鍼灸整骨院で施術スタッフとして勤務。 ②教育経験 平成25年4月～柔道整復師養成施設にて専任教員として勤務し現在に至る。 平成31年4月～令和3年3月 宝塚医療大学 柔道整復学科の非常勤講師として勤務。 令和3年4月～追手門学院大学 共通教育機構の非常勤講師として勤務し現在に至る。 ③研究歴 平成30年4月～令和3年3月 大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座専修学校研修員 石井 裕己 平成21(2009)年3月20日 平成医療学園専門学校 入職 平成24(2012)年10月20日 柔道整復師専科教員 取得

1 項 目	授業方針・認定実技概要の説明、流れの説明
学 習 目 標・ポ イ ン ト	バイタルチェックや患者誘導、共通項目の確認。
使 用 す る 材 料	パソコン・プロジェクター、財団認定実技H30年度版DVD
備 考	
2 項 目	鎖骨骨折の整復・固定
学 習 目 標・ポ イ ン ト	整復では整復動作の目的を理解し正確な動作を指導する。 固定ではデゾー包帯固定法を指導する。
使 用 す る 材 料	局所副子、スダレ副子(患部圧迫用)厚紙
備 考	
3 項 目	上腕骨外科頸外転型骨折の整復、上腕骨骨幹部骨折の固定
学 習 目 標・ポ イ ン ト	整復では動作の要点を指導する。固定ではミッドドルフ固定法を指導する。
使 用 す る 材 料	帯、腋窩枕子、ミッドドルフ三角副子、スダレ副子
備 考	
4 項 目	コーレス骨折の整復・固定
学 習 目 標・ポ イ ン ト	整復では転位を理解させ正確な動作を指導する。固定ではシーネ固定を指導する。
使 用 す る 材 料	シーネ、局所副子
備 考	
5 項 目	肩鎖関節上方脱臼の整復・固定
学 習 目 標・ポ イ ン ト	整復では正確な整復動作を指導する。 固定ではロバートジョーンズテーピング固定を指導する。
使 用 す る 材 料	テーピング50mm
備 考	
6 項 目	肩関節前方烏口下脱臼の整復・固定
学 習 目 標・ポ イ ン ト	整復ではヒポクラテス法を指導する。固定では肩関節上行麦穂帯を指導する。
使 用 す る 材 料	局所副子
備 考	
7 項 目	肘関節後方脱臼の整復・固定、肘内障の整復
学 習 目 標・ポ イ ン ト	整復では側臥位整復法を指導する。固定ではシーネ固定を指導する。
使 用 す る 材 料	シーネ、枕子
備 考	
8 項 目	肩関節軟部組織損傷(腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷)の検査法
学 習 目 標・ポ イ ン ト	検査法では軟部組織への圧や抵抗のかけ方などを指導する。
使 用 す る 材 料	
備 考	
9 項 目	第5中手骨頸部骨折の固定、手第2指PIP関節背側脱臼の固定
学 習 目 標・ポ イ ン ト	手指のアルミ副子を用いた固定法を指導する。
使 用 す る 材 料	アルミ副子
備 考	
10 項 目	下肢軟部組織損傷(ハムストリングス損傷、大腿四頭筋打撲)の検査法
学 習 目 標・ポ イ ン ト	検査法では検査する軟部組織への自動屈曲・他動伸展の方法を指導する。
使 用 す る 材 料	
備 考	
11 項 目	膝関節軟部組織損傷(前十字靭帯損傷、内側側副靭帯損傷、半月板損傷)の検査法
学 習 目 標・ポ イ ン ト	検査法では検査する軟部組織への圧のかけ方、牽引力、肢位などを指導する。
使 用 す る 材 料	
備 考	
12 項 目	膝関節内側側副靭帯損傷の固定、肋骨骨折の固定
学 習 目 標・ポ イ ン ト	膝ではテーピング固定を指導する。肋骨骨折では厚紙副子と晒を用いた固定を指導する。
使 用 す る 材 料	テーピング50mm、厚紙副子、晒
備 考	
13 項 目	下肢軟部組織損傷(下腿三頭筋損傷、足関節外側靭帯損傷)の検査法
学 習 目 標・ポ イ ン ト	検査法では軟部組織への検査の方法を指導する。
使 用 す る 材 料	
備 考	
14 項 目	足関節外側靭帯損傷の固定
学 習 目 標・ポ イ ン ト	バスケットウィーブ固定、フィギュアエイト・ヒールロック固定、局所副子固定法を指導する。
使 用 す る 材 料	テーピング38mm、U字パッド、下肢シーネ
備 考	
15 項 目	下腿骨骨幹部骨折の固定、アキレス腱断裂の固定
学 習 目 標・ポ イ ン ト	下腿骨骨幹部骨折の固定、アキレス腱断裂の固定法を指導する。
使 用 す る 材 料	下肢シーネ、局所副子、枕子
備 考	